

子どもたちの健やかな成長と発達を目指して

～学校、家庭、地域が連携して子どもを育むための方針～

近年、子どもたちを取り巻く環境が多様化・複雑化するなか、社会性や規範意識および自尊感情の低下、学力や学習意欲をめぐる問題、いじめ問題など、さまざまな課題が山積しています。

こうした課題をふまえ、玉縄中学校区の小、中学校においては、目指す子ども像として「明るく元気に、仲間と協力して活動する児童生徒」「自ら学び、深く考え責任を持って行動できる児童生徒」「心身ともに健康な児童生徒」を掲げ、日々の教育活動に取り組んでいます。

しかしながら目指す子ども像を具現化していくためには、学校だけの取り組みでは難しい状況にあり、学校、家庭、地域の連携がますます大切になります。

そこで、学校、家庭、地域が連携して子どもたちを見守っていくよりどころとして、目指す子ども像に基づき、基本的な目標をつぎのとおり設定しました。学校、家庭、地域がそれぞれの役割を意識し、地域社会で子どもたちを支える体制づくりを目指していければ幸いです。

○明るく元気に、仲間と協力して活動する児童生徒

1. あいさつの習慣を身につけられるようにしよう

あいさつは周囲の人との関係を豊かにします。あいさつをすると、お互いが気持ちよく生活することができます。「おはよう」「こんにちは」「行ってきます」「いただきます」「ただいま」「ありがとう」「ごめんなさい」「さようなら」「おやすみなさい」が自然と言えるようにしましょう。

2. 人とのふれあいを大切にする子を育てよう

子どもたちは、地域の人たちや他学年の児童・生徒とのふれあいをとおして社会で生きていくための大切なことを肌で感じ学んでいきます。さまざまな活動に参加し、さまざまな年齢の人たちとふれあう体験を大切にしましょう。

3. 社会への関心を持つ子を育てよう

社会のできごとを話題にしたり、世界の様子に目を向かせたりしましょう。そのときに子どもが疑問に思ったり、関心を持ったりしたことをいっしょに考えたり、調べたりしましょう。

4. 何事にも前向きに取り組む子に育てよう

子どもは間違えたり、失敗をしたりしながら多くのことを学んでいきます。子どもの失敗を責めるのではなく、暖かく見守りましょう。そして、子どもが前向きに挑戦する姿勢を見せたときは、励ましたり、ほめたりしましょう。難しいことでも失敗を恐れず、何事にも前向きに取り組む気持ちが自信につながります。

○自ら学び、深く考え責任を持って行動できる児童生徒

5. 落ち着いた学習環境をつくろう

目のつくところにスマートフォンやゲーム機など気になるものがあると、学習に集中できなくなってしまう子どももいます。周囲を整理整頓し、集中して学習に取り組めるよう学習環境をつくりましょう。

6. 深く考えることを大切にする子を育てよう

思考・判断する力を高めるために「どうすればできるだろう」「なぜそうなるのだろう」と考える機会をつくりましょう。深く考えることを繰り返すことで、知識や技能を活用する力がつきます。

7. ねばり強くやり遂げる経験をさせよう

ほめたり、励ましたりしながら、最後まで課題に取り組ませましょう。そして、やり遂げたときの喜びをいっしょに共有しましょう。ものごとを最後までやり遂げてうれしかったと思う経験の積み重ねが、ねばり強さを育みます。

8. 役割を自覚すること、責任感を持つことを大切にする子を育てよう

集団に所属すると、さまざまな役割を担います。自分の役割を自覚し、責任を持って果たしていくなかで、子どもは自分の長所を伸ばすことができます。また苦労や努力を重ねることで、自分を成長させることもできます。

9. いつも希望を持って夢や目標に向けて努力する子を育てよう

大きな夢や希望を持つことは、子どもの可能性を大きく引き出してくれます。そうした大きな夢の実現のために、少し努力をすれば手の届きそうな、日々の学習や取り組みにおける小さな目標の実現から始めてみるのが大切です。

10. みんなで子どもを応援しよう

子どもに「ありがとう」「うれしいな」「助かったよ」「すごいね」などの言葉をかけましょう。これらの言葉を心から伝えることで、子どもの自信が深まり、自尊感情や自己肯定感が高まります。苦しいことにも負けないでがんばろうとする力をつけることができます。

○心身ともに健康な児童生徒

11. 基本的な生活習慣を身につけられるようにしよう

日常生活をしっかりと過ごすためには、十分な睡眠をとるとともに朝食をきちんととることが大切です。また、テレビやゲームの時間を決めるなど、時間の過ごし方を家庭でもしっかりと話しあって、生活リズムを整えましょう。

12. 人の気持ちがわかる、思いやりを持った子を育てよう

子どもたちは、学校生活や地域の行事でいろいろな人と関わることで、他人の気持ちを汲んだり思いを想像することを学びます。そのような学びを積み重ねることで、人を大切にする思いやりの心が育っていきます。

13. 健康と安全を考えて行動する子を育てよう

体調が悪いと学習や運動に集中できないものです。日常の生活をしっかりと過ごすためには、体調管理に努めるようにしましょう。ケガをしたときは無理にがんばるよりも治すことが大切です。また事故に遭わないよう普段から心がけましょう。自転車への乗り方など、交通安全に気を配りましょう。

14. 「誰かの役に立つ人になろう」とする気持ちを持てるようにしよう

わたしたちは、社会の一員として、助け合い、協力し合って生活しています。身近なところで自分を支えてくれる人や学校や地域のなかでお世話になっている人に、感謝の心を表し、互いにその気持ちを出し合うことで、温かい関係が築かれることを子どもに伝えましょう。

